

2019年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(法学研究科)

(科目名:刑法)

2018年9月15日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

以下の三問のうち、二問を選んで解答しなさい。順番は問わない。

1. 正当防衛の要件について、緊急避難との違いにも触れながら説明しなさい。
2. 共犯の処罰根拠について説明しなさい。
3. 文書偽造罪の保護法益と文書の意義について説明しなさい。

得点

2019年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(法学研究科)

(科目名:民法)

2018年9月15日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

次のⅠとⅡに答えなさい。

Ⅰ. 論述問題

町工場を営むBは、事業資金としてC信用金庫から2000万円を借入するにあたり担保を要求された。Bは、経営からは退いていた父Aに相談したところ、Aから、A所有の甲地(時価8000万円)をもって当該金銭消費貸借の担保としてもよいと言われた。Aは高齢で足も不自由なため、抵当権設定登記手続についてはBが代行することとし、そのために、AはBに自己の実印と印鑑登録証明書および委任状を交付した。その後、AとCとの間で甲地につき抵当権設定契約が締結された。

ところで、Bは、かねてよりCからさらに2000万円程度の追加融資を受けたいと考えており、Cに追加融資の可能性を相談したところ、Cからは、今後の取引のことも考えて甲地に5000万円を限度とする根抵当権を設定してはどうかとの提案を受けた。そこでBは、その件についてはAに確認しておく旨、Cに伝えた。

後日、Bは、根抵当権設定の件についてAに相談・確認しないままに、Cに対してこの件についてもAからの承諾があった旨を告げ、またAから交付されていた委任状をみて筆跡をまね、委託されていた実印を用いて偽造した委任状をCに提示する等した上で、当初の契約から一ヶ月後に、Aの代理人として、Cとの間で甲地につき5000万円の根抵当権設定契約を締結し、その旨を登記した。

その後、Bは数年にわたってC信用金庫から一定額の借入れと返済を繰り返していたが、返済金3500万円を残して返済不能に陥ったため、Cはこれを被担保債権として根抵当権を実行に移すこととした。Aは、Cに対して、どのような法的主張が可能か検討しなさい。

Ⅱ. 以下の用語の中から1つを選んで、論じなさい。

- (1) 背信的悪意者
- (2) 準事務管理
- (3) 不法原因給付

得点

2019年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(法学研究科)

(科目名:労働法)

2018年9月15日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

以下のそれぞれの問題に答えなさい。

(1) 労働契約法18条について、論点を指摘したうえで、自らの見解を展開しなさい。

(2) 「労働時間法制の見直し」と「雇用形態にかかわらず公正な待遇の確保」をかけた、いわゆる「働き方改革」法が成立した。この「働きかた改革」法を批判的に検討して、自らの見解を展開しなさい。

得点

2019年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(科目名:刑事訴訟法)

(法学研究科)

2018年9月15日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

以下の【第1問】から【第3問】のうち、2つを選んで解答してください。解答にあたっては、関連条文を明示するようにしてください。

【第1問】

いわゆるGPS捜査（車両に密かにGPS端末を取り付けてその位置情報を検索し把握する捜査手法）は、現行法上許されるでしょうか。その理由も示して、論じてください。

【第2問】

有罪答弁制度（いわゆるアラインメント制度）を日本で導入することの法的問題点および実際上の問題点について検討し、その上で自分の見解を述べてください。

【第3問】

供述者の供述時の精神状態を明らかにする供述は、非伝聞証拠として扱われるとする見解があります。そのように扱われる根拠について、具体的な例をあげて説明してください。

2019年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(法学研究科)

(科目名:税法)

2018年9月15日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

次の問題1・問題2とも解答せよ

【問題1】

法人の課税所得計算における、いわゆる「確定決算主義」について検討しなさい。

【問題2】

X(夫、医師)は、平成元年にA(妻、専業主婦)と結婚したが、この度離婚することになり協議が成立した。離婚に伴う財産分与として、Xが20年前に取得し、婚姻期間中住んでいた居住用不動産をA名義に変更する予定である。(この居住用不動産には値上り益があるものとする。)

この場合、X・A各々についてどのような課税問題が生じるか、理由を含め関連する判例に言及の上、検討しなさい。

2019年度 大学院(修士課程)入学試験問題

(科目名:英語)

(法学研究科)

2018年9月15日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

次の英文を日本語に訳しなさい。

(出典:The Japan Times, Editorials, Aug. 18, 2018)

【引用部分は削除しています】

得点